

令和6年度 校内研究計画

1 研究主題

学ぶ喜びと楽しさを感じ、主体的に学習に取り組む児童の育成
～国語科指導の工夫を通して～

2 主題設定の理由

①最近の教育課題から

学習指導要領では、国語科においても、学習する児童の視点に立ち、育成する資質・能力を明確にすることが求められている。国語科で育成を目指す資質・能力は、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と示されている。この資質・能力を育成するためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、主体的に学習に取り組む態度を含めた学びに向かう力や、身につけた基礎的・基本的な内容をどのように使うかという思考力・判断力・表現力等を育てることが必要である。

したがって、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視し、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶための指導方法を充実させていくことが大切である。また、単元を通して、1単位時間の授業の中で、学び手である児童にとっても、指導者にとっても学びの成果が見え、積み上げたことが見える学習指導の充実が必要となる。

このようなことから、主体的に学ぶ意欲や態度の育成を図りながら、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力等を高める指導方法の工夫を通して、研究を進めていくことは、とても価値のあることであると考えます。

②学校教育目標と重点目標の具現化から

ふるさとを愛し、夢と誇りをもって、心豊かにたくましく生きる児童の育成
～ 行きたい学校 帰りたい家庭 住みたい地域 ～

本校の教育における目指す児童像を受けて、国語科における具体的な児童像を以下のように設定した。

◇自他を大切に、思いやりのある児童

- ・共に学び合う児童
- ・自分も他者も尊重しながら、ともに考えを導き出そうとする児童

◇自ら考えて、主体的に学ぶ児童

- ・進んで考え、よりよく問題解決をしようとする児童
- ・主体的に課題に向かい、根拠をもって自分の考えを明らかにしようとする児童

◇最後まで、粘り強く取り組む児童

- ・あきらめずに考える児童
- ・学習で獲得した力を認識したり活用したりすることで、今後の学習や実生活に生かしていく児童。

③児童の実態から

一昨年度の市学力調査の結果から、国語科の正答率は標準スコアに達していない学年が多く、基礎的な問題においても、思考力が問われる活用問題においても落ち込んでいる児童が一定数いるという状況が明らかとなった。また、職員の意見として、自分の考えを話す力の弱さや書く力の欠如、読み取る力の不足などが挙げられ、児童の語彙力を伸ばしたい、各教科にわたって自分の考えを表現する力を付けたいという意見が多くあがった。そこで、本校では、昨年度から国語科の研究を始めた。

昨年度は、読み取り活動（物語・説明文）の授業研究を軸として、主体的で対話的な学習の実現を目指し、学びのコーディネートを行うという視点で研究を進めた。具体的には、単元の初めから終わりまで、ゴールの活動と身に付けたい能力を明確に示し、学習を進めることで、児童は学習の見通しをもち、学習意欲を継続させることができた。また、接続語や順序を表す語など、注目する言葉を示すことで、児童のより確かな読み取りにつなげることができた。一方で、語彙力の不足や、学力差への対応、話し合いの活発化、学習意欲の向上、家庭学習の在り方などの課題も残る。

そこで、今年度の目標としては、学習課題を大切にしたい授業研究を軸として、より児童一人一人に
応じた主体的で対話的な学習の実現を目指した研究を進めていきたい。また、それと同時に、基礎的・基本的な力や学習習慣の定着も図っていきたい。

授業研究においては、以下の点を意識していきたい。

- 本気で学習に向かうための単元のめあて、毎回のめあてを立てる。（学習過程の工夫）
- 熱く語り合うための場の工夫、言葉を磨くための揺さぶりの発問。（指導形態の工夫）
- 獲得した言葉の力の高まりや自己の変容を実感できるまとめの設定。

3 研究仮説

国語科学習指導において、次のような指導の工夫を行えば、児童が学ぶ喜びと楽しさを感じ、主体的に学ぶことができるであろう。

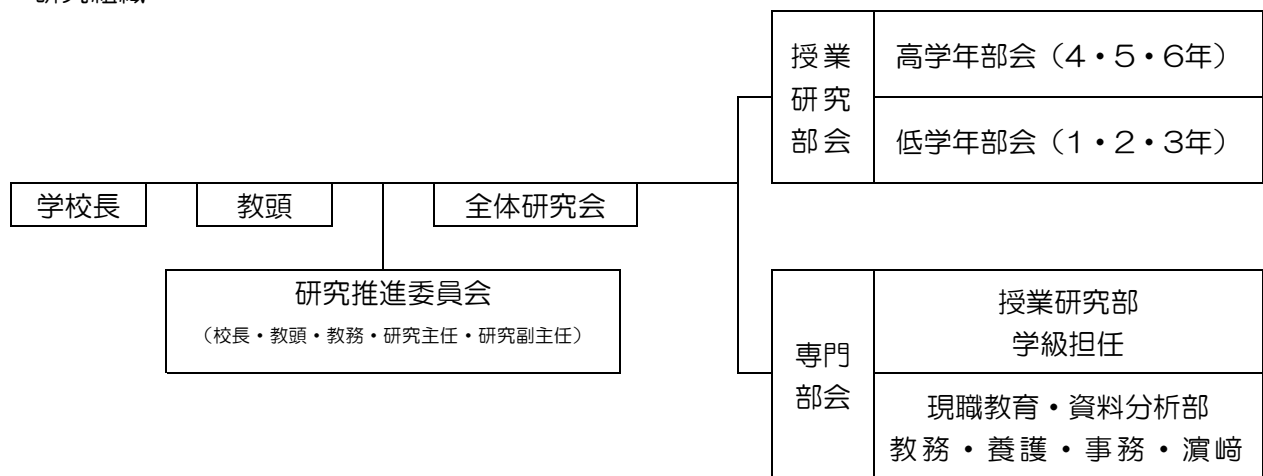
- ①学ぶ意欲を高める単元構成や導入の工夫
- ②協働して思考を深める指導の工夫
- ③獲得した言葉の力の高まりを実感できるまとめの工夫

- ①「学ぶ意欲を高める単元構成や導入の工夫」とは
 - ・言語活動に対する問いや願いをもとにした単元のめあて
 - ・教材の内容に対する問いや願いを追求する単元のめあて
 - ・必然性のある課題設定
 - ・課題解決に向けた見通しを立てる活動の設定
- ②「協働して思考を深める指導の工夫」とは
 - ・個別に考え、表現する時間の保障
 - ・熱く語り合うための場の設定
 - ・新たな気付きや理解の深化を促す揺さぶりの発問
- ③「獲得した言葉の力の高まりを実感できるまとめの工夫」とは
 - ・付けたい力を明確にした授業づくり
 - ・学ぶことの意義を実感できるまとめづくり
 - ・自己の学びを振り返る場の設定

4 研究内容

- 国語科授業内容の研究（研究授業または、実践報告）
- スキルタイムの活用（漢字・ことわざ・ローマ字・短作文・文法・国語辞典の使い方）
- 特別支援教育の考え方を生かした個人差に対応した授業づくりの工夫
- ICT教育の推進（担任のスキルアップ&授業研究および実践）
- 家庭・地域との連携
- 先進校視察、出張報告
- 現職教育
- 話す力の向上（学級スピーチ）
- 読書タイムの活用（様々な読み物に触れる）
- 学校環境の整備（国語科の掲示物）
- 国語アンケートの実施

5 研究組織



部会		研究内容（案）
授業研究部	低学年部	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じた学力向上に向けての対応策及び検証法の立案 ・国語科の指導法の研究及び提案 ・ICTの効果的活用法の提案 ・特別支援教育の考え方（ユニバーサルデザイン）を生かしての授業づくりについての研究と提案
	高学年部	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の推進 ・教材教具の整備 ・家庭学習・読書活動の啓発活動 ・学力向上のための校内環境整備 ・読解力向上のための取組 ・スキルタイムの実施
現職教育・資料分析部		<ul style="list-style-type: none"> ・現職教育の計画、実施 ・掲示物等の計画、作成 ・各学力調査結果分析（国語アンケート）

6 年間計画

回数	学期	月	日	曜日	会種	内容
1	1	4	3	水	推進	今年度の方向性について
2		4	11	木	全体会	本年度の校内研究の方向性、共通理解事項確認 学力向上プラン確認
3		5	9	木	全体会 ↓ 低・高部会	研究授業の計画 全体授業者決定 各部会の重点指導内容
4		6	6	木	全体会	提案授業（4年）
5		6	13	木	全体会	（授業改善研修会）
6		6	27	木	全体会 ↓ 低・高部会	重点指導内容について話し合い、意見交換
7	夏休み	7	22	月	全体会	1学期の振り返り、夏休みの研修について
8		8	9	金	全体会	学力向上プランの検討など・（chromebook研修会）
9		8	30	金	全体 ↓ 低・高部会	全体授業指導案検討（ ）年・保健研修
10	2	9	19	木	全体 ↓ 低・高部会	全体授業指導案検討（ ）年
11		9			学年部会	研究授業・授業研究会（ ）
12		10	17	木	全体	研究授業・授業研究会（ 年）
13		10			学年部会	研究授業・授業研究会（ ）
14		10	31	木	全体	全体会 共通理解事項の確認
15		11			学年部会	研究授業・授業研究会（ ）
16		11	21	木	全体	研究授業・授業研究会（ 年）
17		11			学年部会	研究授業・授業研究会（ ）
18		12	24	火	全体	2学期の振り返り
19	3	1	9	木	全体 ↓ 個人	（ICT講習会） 紀要原稿作成
20		1	23	木	全体	学力検査結果考察
21		2	6	木	全体	（chromebook研修会）
22		2	27	木	全体 ↓ 低・高部会	今年度研究まとめ 授業研究振り返り等
23		3	21	金	推進	来年度の方向性について
24		3	24	月	全体会	来年度の方向性について話し合い

※上記の研修計画はあくまでも予定であり内容変更、研修回数の増減もあり得るのでご了承ください。

※授業改善研究会の伝達講習や研修会の伝達講習の時間を適宜とらせていただきます。昨年度の反省のもと各部会での意見交換の時間を確保していきたいと思っております。